

# 2019年度のボランティア・NPO 活動センターをふりかえって

センター長 筒井のり子

本センターは2001年度創設以来、さまざまな組織や人々と連携、交流を深め、学内外におけるボランティア活動の振興が図れるように事業を実施してきました。2019年度も多くの方々のご協力、ご支援をいただきました。ここに改めてお礼申し上げます。

本センターの運営は、学生スタッフ、職員、教員の3者によって行われています。2019年度も3者によるセンター会議、教職員によるセンター委員会を開催し、センターの様々な事業について多角的に検討し実施してきました。それらの中から、主なものを紹介したいと思います。

## 〈東日本大震災等復興支援の取り組み〉

本学では2011年の東日本大震災発災以降、継続して復興支援活動に取り組んでいます。2019年度も宮城県石巻市雄勝への復興支援ボランティアバスを8月と9月の2回運行し活動を行うとともに、2月には福島スタディツアー（5回目）を実施しました。学生たちにとって、災害復興のあり方を考えるとともに、南海トラフ地震の発生予測を踏まえて、自分自身や地域における防災についても深く思いを巡らせることができたことは、大きな意味があったと思われま

す。また、この数年日本各地で大きな災害が発生していますが、2019年度も台風15号／19号による暴風・豪雨災害をはじめ、多くの自然災害に見舞われました。これらの災害に対して、ボランティア活動に関する情報収集と提供、活動グッズの貸出、義援金活動などに取り組みました。

## 〈国内・海外体験学習プログラム〉

これらは、体験を通した「学び」に主眼を置いたものであり、2019年度は国内では2月に福島県と滋賀県近江八幡市でスタディツアーを実施しました。海外は夏季に1つ実施しました（タイ王国：NGO主催のスタディツアーに参加）。春季には3つ（アメリカ、台湾、インド）を企画していましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大に伴い、台湾以外は止むを得ず中止となりました。

## 〈ボランティアリーダーの育成〉

初心者向けの「ボランティア入門講座」、また「ボランティアリーダー養成講座」を2回開催し、センターの学生スタッフやグループ運営で悩んでいる他サークルのリーダー等へも学び

の場を提供することができました。また、深草学舎の教養教育特別講義「ボランティア・NPO入門」への協力を行いました。さらに「ボランティアコーディネーション力3級検定」（JVCA）の共催も行いました。

## 〈学生スタッフ企画〉

この他、深草・瀬田の両センターの学生スタッフによるボランティア実践やボランティア活動へのきっかけ作りなどのさまざまな企画が実施されました。いずれも何度も企画を練り直し、あるいは学外団体の方々との細かい調整を行いつつ実施したものです。こうしたプロセスも学生にとって重要な学びとなっていることと思います。

## 〈ボランティアコーディネートの充実〉

センター事業の基盤ともいえるべき日常的なボランティアコーディネーターですが、コーディネーターと学生スタッフが協働し、学生・教職員からの多くのボランティア活動希望者の相談に対応しました。また学外団体からのボランティア募集や運営相談にもコーディネーターが対応しました。

## 〈センター20周年への準備〉

これらに加えて2019年度は、2021年のセンター開設20周年に向けて記念事業の検討を行い、過去の学生スタッフへのアンケート調査など一部に着手しました。

2019年度終盤は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外体験プログラムや学生スタッフ企画、合宿などを中止にせざるを得ませんでした。after コロナ、with コロナ社会では、これまでと同じ活動はできなくなるかもしれません。しかし、人と人が出会うこと、現場に出て体験することの重要性を認識し、センターとしてもさまざまな工夫をしていきたいと思えます。今後とも、ご支援、ご協力をよろしく願います。

